

千葉市 手をつなぐ育成会だより

第 155 号

平成29年(2017)11月 9日
千葉市手をつなぐ育成会
会長 島田 貴美代
千葉市稲毛区作草部2-4-5
TEL・FAX 043-206-4050
✉ chiba-chibahands@dance.ocn.ne.jp



千葉南警察署で育成会ミッション

現在、障害のある人の多くは家族と暮らしたり、グループホームやアパートで暮らしています。また、通勤や通所、通学などで地域の人たちと関わる機会が増えています。一方で、社会全体が犯罪に敏感になり、人と違う行動をとると、不審者として通報される可能性があります。事件の加害者あるいは被害者として、また、トラブルが起きた際真っ先に関わって下さる警察官向けに、理解促進のための冊子「知ってほしい・知っておきたい」知的障害と警察」を

育成会ミッション 「知的障害理解と権利擁護」そのI警察版(2)

全国手をつなぐ育成会連合会権利擁護センターが作成、昨年、千葉市内5カ所の警察署にお届けし、趣旨を説明して来しました。**〔千葉南警察署にて〕** 昨年の千葉中央署に引き続き、今年6月23日、千葉南警察署の署員研修に参加させていただきました。事例なども交え、特性やコミュニケーションのとり方、対応に配慮していただきたいことなどを説明することができました。**〔家族にできる事〕** 知的障害がある人には、家庭や学校などで、小さい頃から物事の善悪や問題を避ける方法、社会のルールを繰り返し教える、日頃から近所や行動範囲のバスや駅、コンビニ店などにも見知っておいてもらい、地域の理解者・応援者を増やしていくことが重要です。**〔育成会でも〕** 今年度も、知的障害児者理解啓発活動として、警察署、社会福祉協議会、民生委員などの研修で、説明の機会を設けさせて

いただく予定です。少しずつ理解の輪が広がることを願います。(副会長 長谷川) **要望書提出** 障害のある人たちが各ライフステージに応じた適切な支援のもと、安心して暮らせる体制を整備していくことは急務です。8月10日、千葉市に来年度予算編成および障害福祉計画に関する要望書を提出しました。**1 地域生活支援拠点について** この事業は、障害者の重度化、高齢化や「親なき後」を見据えた時に、必要不可欠な事業であると考えています。この事業を推進するにあたり、先ず人材の確保や短期入所のためのベッド数の整備をお願い致します。そして事業者同士の機能分担と連携が何よりも大事です。で、その基盤づくりに千葉市の主導的役割をぜひお願いします。**2 移動支援について** ヘルパー不足等の理由から思うように移動支援が利用できない状況になっています。障害の理解促進のためにも、また孤立を防ぐためにも、本人のニーズに合わせ社会参加を促すことは重要なことです。地域生活を送

るうえで欠かせないこの事業を充実させるために、ヘルパーの増員をお願いします。**3 計画相談支援体制の充実** 知的障害児者の地域生活の基礎となる計画相談支援においては、事業所数や計画作成率の改善はみられますが、増加する障害児者に対して慢性的な相談支援専門員不足により、「利用プラン」による提出を余儀なくされているという現状があります。計画相談は本人の人生の骨格を形成することから、アセスメントからモニタリングに至るまで、質の高い内容が保たれることが重要です。引き続き相談支援専門員の増員をお願いします。**4 養護学校・特別支援学校の教室不足解消について** 市内養護学校・特別支援学校の児童生徒数が年々増加し、教室不足が深刻になり、特別教室等の普通教室への転用、衝立で仕切った廊下更衣室など、学校生活環境が悪化しています。現状および将来的に必要な学校の適切な規模を把握していただき、既存施設の養護学校・特別支援学校への転用等も検討し、早急な教育環境の整備をお願いします。(会長 島田 貴美代)

第51回千葉市手をつなぐ育成会関東甲信越大会 本人大会 自分をしあわせにしたい



暑い中、大勢の人が集まりました

支援者がテーブル(1テーブルに9〜10名、全部で10テーブル)に着席すると、最初は焼きそば、次いでフランクフルト、ステーキ、トン汁と次々に出てきて最後はスイカを食べました。気温が33度を超える猛暑で屋根付きの場所を貸切とした役員の方々に感謝です。



▽午後の分科会

午後からは話し合い組(四つのテーマ：趣味、仕事、いじめ、ぶっちゃけトーク)と森の散策組に分かれました。僕達は散策組を希望しパークセン



外で食べる食事は最高!!

▽感想

本人大会に参加するのは初めてですが、バーベキューを美味しく食べる息子や、「来年の全国大会は京都だつて、楽しみだな」と話すご本人、「良い場所に来ているので、映画は見ずに娘と散歩させて欲しい」というお母さんがいたり、本人大会の意義を考える良い機会となりました。(副会長 佐久間)

育成会のうごき 7月~10月

- 7月10日 障害者自立支援協議会全大会
- 13日 平成29年度養護教育センター運営協議会
- 22日 関東甲信越大会・千葉県大会併催(松戸市) [本誌P3.4]
- 8月3日 千葉市社会福祉協議会ヒアリング
- 10日 千葉市へ要望書提出 [本誌P1]
- 9月4・6・11・12・13日 各区おしゃべり会
- 11日 千葉市施策推進協議会
- 21日 心の輪を広げる体験作文・障害者週間ポスター審査委員会
- 23・24日 第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会(北海道札幌)
- 26日 千葉市における特別教育の在り方等に関する検討会議「第4次千葉市障害者計画・第5期千葉市障害福祉計画・第1期障害児福祉計画」の素案に係る障害者団体等ヒアリング
- 10月7日 第20回ワークホームまつり
- 10日 第17回全国障害者スポーツ大会千葉市代表選手団結式
- 14日 まさご祭り
JR旅のプレゼント
大宮学園運動会
- 21日 ハロー・でいさく2017(ソーイング部出店)
- 24日 「どうしたらこの子の将来を守れるか」研修会
- 28日 ちしろまつり(千葉市立養護学校)

編集後記

◆十歳になる娘と一緒に初めて二人だけで旅をしました。飛行機に乗る時も、ホテルのバイキングで食事をする時も、どうなることかと不安でしたが、大きなトラブルもなく何とか乗り切ることができました。無理だと決めつけず、やってみることを学んだ旅でした。(齋藤)

◆通所を始めて半年。元気に働いた様子を単語で伝える息子に安心する毎日。保護者送迎も生活リズムになり、出だしとしては順調。しかし何が起るかわからないのが息子。最近少しずつ肥満傾向が……。これからも見守りに気が抜けません。(前田)

障がいを持つ子のお母さんのお話を聞く会

卒業。。。そしてその後

6月29日(木)、でい・さくさべ会議室にて、30歳前後の障害を持つ子の3人のお母さんから、子どもの成長や子育て経験を聞く会が開催されました。参加者は58人でした。

【生活介護利用者の母の話から】

今のように便利な放課後デイサービスや移動介護がなかった幼少期の苦労、特別支援学校に入学してからの学校とのコミュニケーションや家庭での愛情いっぱい、結果をあせらない子育て対応、外出時の配慮の他、本人の通所先や家庭での現在の様子、通所先への保護者送迎の話などがありました。病院を怖がらない様に定期的に歯科や病院で検診を受けてみる等、学期から対応可能な話もあり、親のロングサポートについても考える良い機会になりました。

【就労移行支援利用者の母の話から】

西日本から千葉に移住され、本人の生活基盤の変化に対する不安の中で始まった小学校生活の事、中学校支援級での成長、特別支援学校の高等部での

学校との進路相談の事、就労移行支援事業所へ毎日安全に落ち着いて通所している様子や、本人の余暇について話がありました。本人を見守りながらも家族の生活も大切にすることを考えさせられたお話しでした。

【特例子会社就労者の母の話から】

就学前は他市で生活。千葉市移住で小学校を転校し、地域との関わりを新たに作った様子や、学校と養護教育センターとのコミュニケーションに努力したこと、本人の長所を生かしながら成長を支えて様々な経験を積んできた様子、小・中学校の支援級や特別支援学校高等部での本人の成長、特例子会社就労後の様子や家族との関わりについて話され、本人の意思尊重の大切さ

あめんぼクラブ

まだ今のように、放課後デイのような支援がなかった頃、「放課後活動をやりたい」という保護者の方々の声からその立ち上げを育成会がお手伝いし、放課後活動が始まりました。当初は5つのクラブができましたが、現在は唯一、『あめんぼクラブ』が毎週木曜日にこてはし温水プールで活動しています。

ボランティアさんの協力で、年齢が小さな子供たちは、プールでのマナーや、家族以外の方とのかかわり方などを本人のペースに合わせて体験できる場となっています。また年齢が上がった子供たちは、水泳のスキルも上達し、自信にもつながっています。

さらなる成長のため、また思春期の肥満防止や、ストレス発散にも役立たせた、充実感を持てる活動を目指しています。一緒に活動する仲間を募集中です。また、お手伝いをして下さるボランティアさんも募集しています。(副会長 長谷川)

(広報部 前田)

【参加者の感想】

- ・お母さま方の生き生きとした姿が印象的でした。
- ・出来る事から積み重ねていきたい。
- ・次回はご本人も一緒に話が聞けたらと思います。
- ・将来の暮らしについても聞きたい。

参加者の子どもの年齢は就学前〜40代過ぎと幅広く、三人三様の子育て話に熱心に聞き入り、うなずいたり考え込んだりしている様子は、各世代毎の様々な子育てへの思いを反映しているようでもありました。

どちぎつさまでした

先日、広報部のメンバーで西千葉駅近くの地域活動センター「キッチン圓MARU」でランチをいただきました。こちらは、障害者の方もスタッフとして働いています。



古い民家を改装した外観は隠れ家の様です。引き戸を開けて入ると玄関で靴を脱いで上がるスタイル、奥は、くつろげるお座敷にテーブル3つ、飾り棚にはレトロな色ガラスのグラスが置かれ、照明もムードいっぱい、和モダンなお店です。メニューは、月、火、木、金曜日は週替わりメニュー、水曜日はピザメニュー。私達が伺ったのは水曜日だったので、ピザセットを頂きました。手作りピザは1枚で3つの味が楽しめるスープとサラダ、飲み物まで付いてお腹いっぱいです。ランチ以外にも甘い味があり喫茶タイムも営業しています。今度は是非あんみつでも・・・。



(広報部 村田)

第51回手をつなぐ育成会 関東甲信越大会 千葉大会 7.22 松戸森のホール

全体会

千葉県報告

- 千葉県袖ヶ浦福祉センターの改革
- 養育園の利用者死亡事件後の見直し
- 大規模ケアから少人数ケアへ
- 外部の第三者の評価を受けながら見直しの進捗管理を実施
- 支援の質及び意識の向上を図る
- 施設内巡回時間の拡大、抜き打ち検査の実施等による県の監査・モニタリングを強化。パーソナルサポーター等の派遣

中央情報報告

- 直面する当面の課題
- 地域生活支援拠点・総合支援法3年後の見直し・意思決定支援の推進・成年後見制度の利用促進・障害者虐待防止法の見直し・障害者差別解消法の地域展開・報酬改定・育成会の啓発・啓蒙活動

(会長 島田)

第1分科会

「心に栄養を注ぎましょう」というスライドを見て、グループ毎に自己紹介と感想を話しました。



和やかに家族支援ワークショップ

第2分科会

「知的障害のある子を知って欲しい」とこの思いから始まったキャラバン隊について堀江まゆみ氏(白梅学園大学教授)より、

プログラムの取組みの大切さと、工夫を聞きました。最後は明星大学教授の吉川かおり氏の講演です。「家族とは、障害のある人の被る社会的障壁を一緒に被っている、だから、支援が必要なんです」吉川先生のお話からは、たくさんの元気と勇気をいただきました。(副会長 長谷川)



全育連・統括の田中正博氏により、計画相談や相談支援専門員の役割の重要性についての講演がありました。シンポジウム「切れ目のない支援を求めよう」では、松戸市cocoセンター長・藤井公男氏が、暮らしのイメージを共有し地域で支えていくことが大事、彩会いるどり所長・橋本諭氏からは、本人に寄り添い、孤立しないネットワーク作りを心掛けていく、そして同愛会・大泉福祉作業所支援課長・竹矢巨氏は、強度行動障害はマッチした環境で適切



市川キャラバン隊が熱演

親性の社会化
【何を伝えるか】合理的配慮とは①相手の立場を自分の視点で考えられること②お互いがウィンウィンになることを喜べることでありとお話がありました。

座間、八千代、松戸、市川、それぞれのキャラバン隊からは活動や課題のお話がありました。(副会長 大里)

第4分科会

親亡き後の生活は、周囲が気づかなかつたり拒否しない限り、公的社会保障で一定のレベルの生活は保障されている。少しでも本人らしい生活をしていくには親がいる間に親も一緒に支える包括的ケアが重要であり、障害福祉と介護保険制度との引継ぎと連携が必要である。

知的障害者は、早ければ40歳代から高齢化するため、生活習慣病予防は20歳代から始め、地域医療に繋げていく。在宅医療には、訪問診療、訪問看護がある。緊急時の入院先や短期入所の確保も重要である。(理事 松川)



第5分科会

相模原津久井やまゆり園事件から一年、多様性を認め合える共生社会を目指す。これから私たちはどうすべきなのか、

「親は疲れても幸せである」こと、「職員はしんどくても面白い」ことを共有していきけるよう、本人のために協力をすること。障害者差別解消法・合理的配慮について、関係者だけで盛り上がるのではなく社会全体にとって良いこととなるよう、まずは私たちが発信し続けていくことが重要である等の提言がなされました。(副会長 成田)